

# 北海道浮魚ニュース

平成 30 (2018) 年度 14 号

2018 年 8 月 23 日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## ◎イカ類南下期資源調査結果

- ・スルメイカは襟裳岬東側でまとまった漁獲があった。
- ・魚体サイズは過去 10 年平均より大きい。

- ・調査期間 : 2018 年 8 月 17 ~ 22 日
- ・調査海域 : 道東太平洋沿岸
- ・調査船 : 北辰丸 (255 トン、イカ釣機 5 台装備)
- ・調査方法 : イカ釣機による 1 晩 2 地点の夜間釣獲調査、CTD による海洋観測

### 1. 水温分布 (図 1)

調査点 10 点の 2018 年の表面水温は 12.1 ~ 17.8 °C (前年 : 16.5 ~ 18.6 °C) の範囲にあり、10 点中 9 点で昨年を下回りました。50m 深の水温は 5.7 ~ 10.9 °C (前年 : 2.6 ~ 12.9 °C) の範囲にあり、10 点中 8 点で前年を上回りました。前年に比べ、表面と 50m 深の水温差が小さく、地点間の水温差も小さくなっていました。

### 2. スルメイカの分布密度

釣獲調査を行った 10 調査点のうち 6 調査点でスルメイカの漁獲がみられました (図 1)。最も分布密度が高かったのは襟裳岬東 St.1 で CPUE (イカ釣機 1 台 1 時間あたり漁獲尾数) は 18.2、次いで広尾沖 St.2 で CPUE は 7.0 となっており、襟裳岬東側でまとまった漁獲がありました。一方、その他の調査点の CPUE は 0 ~ 0.4 と低い値にとどまりました。全調査点の平均 CPUE は 2.62 で昨年 (0.60) を上回ったものの 2001 年以降の平均 (7.69) を下回り、過去の調査との比較では低い値にとどまりました (図 2)。

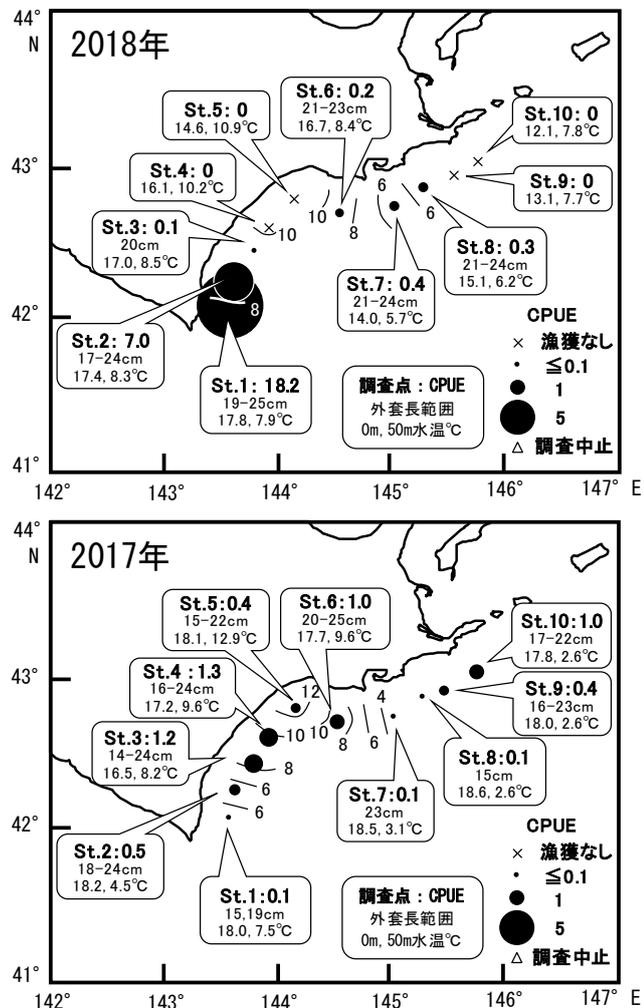


図 1 2018 年 (上) と 2017 年 (下) の漁獲調査結果と水温。●は漁獲調査点を示し面積は CPUE(イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) に比例。等温線は 50m 深の水温分布

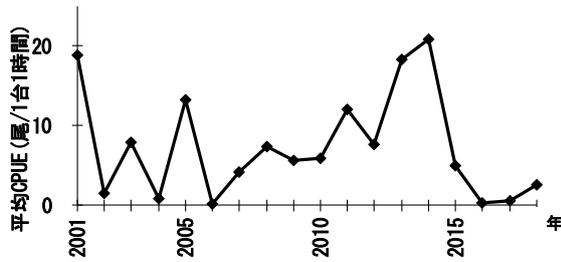


図2 8月道東太平洋におけるスルメイカ平均CPUEの経年変化

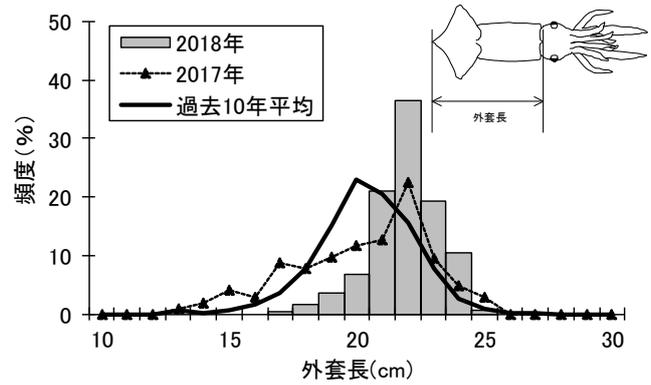


図3 8月道東太平洋におけるスルメイカの体長組成

### 3. スルメイカの大きさ

全漁獲調査点のスルメイカの外套長(胴長)は17～25cm(昨年13～25cm)の範囲にありました(図1)。海域全体の外套長のモード(最も多く漁獲されたイカの大きさ)は22cm(昨年22cm)にあり、過去10年平均に比べ大型の個体の比率が高くなっていました(図3)。

### 4. アカイカ

アカイカは、全漁獲調査点10点のうち、昆布森沖 St.6(1尾)、厚岸沖 St.7(4尾)、浜中沖 St.8(1尾)の計3点で合計6尾の漁獲がみられました。外套長は24～30cmの範囲にあり、平均は27.8cmでした。

(釧路水産試験場調査研究部 TEL: 0154-23-6222, FAX:0154-23-6225)